

久宝寺事業センター

1 工場概要

- ▶ 住所 大阪府八尾市神武町2番35号
- ▶ 従業員数 約380名 (内 クボタ従業員: 約260名)
- ▶ 敷地面積 38,921㎡



2 事業概要

▶ 事業内容

久宝寺事業センター(以下事業所)の発足は、昭和48年。それまでクボタ創業の地である船出町工場(大阪市内)で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍的拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。昭和52年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、昭和60年には電子機器の組立部門が発足。さらに昭和61年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進しています。一方、事業が拡大した自動販売機部門は、平成元年に新しく建設された竜ヶ崎工場(茨城県)CAD事業はグループ会社のクボタシステム開発(株)に移管されました。

現在では、計量器や精米機などの電装機器事業及びその関連会社である(株)クボタ計装関西支社、そして、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業を担当するクボタ環境サービス(株)、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)が業務を行っています。

▶ 主要製品

(1)株式会社クボタ 電装機器事業部 精密機器事業ユニット

計量機器関連事業

<標準はかり>



中・大型 台はかり



防塵防水台はかり



ホイストスケール



充填機専用型 指示計

<トラックスケール>



トラックスケール



指示計

久宝寺事業センター

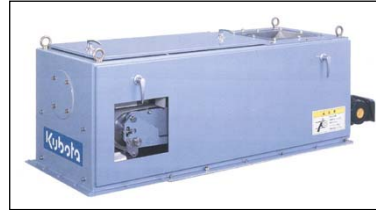
計量システム関連事業

<LPG充填システム>



回転式ACAD型充填機

<粉粒体供給システム>

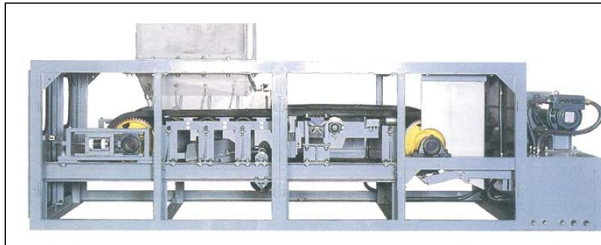


ベルトウイングフィーダ



カセットウイングフィーダ

<産業用はかり>



ポイドメータ



フレコンボックスール

制御システム事業



クリーン精米屋



色彩選別機



フルーツセレクター・ボイスガイド

(2)クボタ環境サービス株式会社



マスチフ
(一軸破碎機)



アイダル
(縦形回転式破碎機)

久宝寺事業センター

(3)クボタメンブレン株式会社



浸漬型膜分離装置



膜カートリッジ

3 工場変遷

- 昭和48年 9月22日 船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
- 昭和52年 粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
- 昭和60年 電子部品組立部門の発足。
- 昭和61年 K-CADの開発開始。
- 平成元年 自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
- 平成10年 4月 技術開発本部電子技術センターが転入。
- 平成12年 4月 電装機器事業部FA営業部および(株)クボタ計装関西支社が転入。
- 平成13年 8月 リサイクルエンジニアリング部製造課がクボタリテックス(株)に移管。
- 平成13年10月 FA技術部がFAエンジニアリング部に集約。
- 平成14年 2月 クボタメンブレン(株)が転入。
- 平成14年 3月 技術開発本部電子技術センターが転出。
- 平成14年10月 事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
- 平成14年11月 リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
- 平成15年10月 リサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
- 平成16年10月 ロードセル課と電子機器課がFAエンジニアリング部傘下に編入。
- 平成17年 4月 電装機器事業部のFA営業部とFAエンジニアリング部が分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
- 平成18年 5月 環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
- 平成19年 5月 環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。
- 平成20年 4月 電装機器事業部の計量システム部と計量機器部が計量システム部に統合。
- 平成20年 8月 膜ソリューション技術部及び環境機器開発センターの実験設備を当所に移管設置。
- 平成22年 3月 電装機器事業部の計量システム部、制御システム部及びCAD部が機能別に再編成され、電装機器営業部、電装機器技術開発部及び電装機器製造部が発足。
- 平成22年 4月 リサイクル事業ユニットがクボタ環境サービス(株)に統合。
- 平成23年 4月 CAD事業がクボタシステム開発(株)に統合され転出。
- 平成24年 4月 組織再編により、電装機器事業部は精密機器事業ユニットに改称、膜事業は新設された水処理システム事業ユニットに編入。

久宝寺事業センター

4 環境方針

▶ ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2006年6月1日改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、電装機器事業部、(株)クボタ計装、クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門、クボタメンブレン(株)がそれぞれ事業運営を行っています。

電装機器事業部は電子・電気をコア技術として、計量関連製品、精米関連製品等の開発、製造、販売を行い、(株)クボタ計装は計量関連製品の販売・サービス及び、金型温調機・計量混合機等の製造・販売を行っています。クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門では、廃棄物のリサイクルに欠かせない破碎機・選別機を製造しています。クボタメンブレン(株)は、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当しています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが助け合い、連携しあって、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

【久宝寺事業センター 環境行動指針】

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップに意を用い、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだ製品アセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料・部品及び梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社の全ての人が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員に配布し、教育、啓発に活用します。又、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂5 2010年 8月31日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

▶ ISO認証取得状況

1999年3月 ISO14001(1996年版)を取得

2011年3月 ISO14001(2004年版)で更新

久宝寺事業センター

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2011年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO ₂ の削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲7%	1.2%	×	生産金額が減少したが、固定排出分の削減が追い付かなかったため。
		CO ₂ 排出量	2008	▲7%	▲5.8	×	
	物流のCO ₂ 削減	CO ₂ 排出原単位	2008	▲3%	▲6.3%	◎	
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲6%	▲30.7%	◎	
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	1.46%	×	非飛散性アスベストを含む設備機械を廃棄し、埋立したため
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲3%	▲4.9%	◎	
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲6%	▲46.9%	◎	(2011年度は取扱量1トンを超える対象物質なし)

※自己評価の基準 ◎…目標超過達成(20%以上達成の場合) ○…目標達成 △…目標一部達成 ×…目標未達成
 注)環境保全中期計画のCO₂排出量実績値の算定の際は、2008年度の単位発熱量及びCO₂排出係数を使用しています。

環境 TOPICS

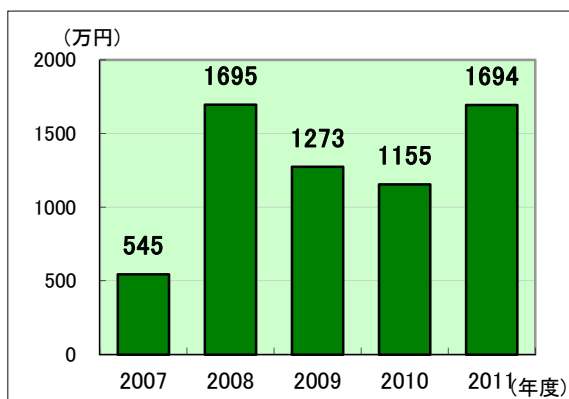
- 1) 老朽化ガス空調機2台を更新し、LPG使用量及びCO₂排出量の削減を図った。<実施:平成24年3月>
 <省エネ効果> LPG使用量削減=3.3t/年 CO₂排出量削減=10.0 t-CO₂/年
- 2) サービスカーについて一般ガソリン車からハイブリッド車への転換を推進し、ガソリン使用量及びCO₂排出量の削減を図った。<実施:平成23年4月 3台目>
 <省エネ効果> ガソリン使用量削減=1,104 l/年 CO₂排出量削減=2.5 t-CO₂/年
- 3) 事業所内の自動販売機35台を28台に削減し、電気使用量及びCO₂排出量の削減を図った。
 <実施:平成23年11月>
 <省エネ効果> 電気使用量削減=28700kwh CO₂排出量削減=10.5 t-CO₂/年

久宝寺事業センター

6 環境会計

① 環境投資

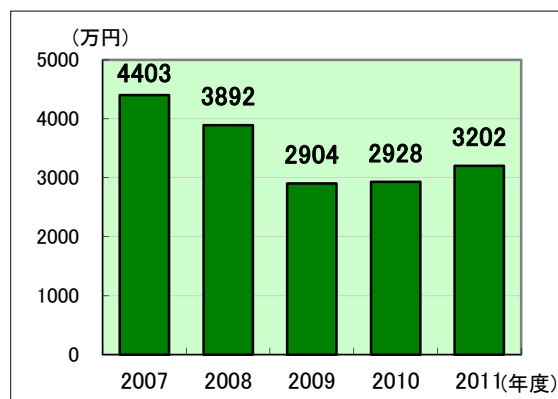
2011年度:1694 万円



② 環境保全費用

2011年度:3201.5 万円

※人件費は含んでいません。



③ 環境保全効果

効果の内容	効果	2010年度	2011年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	35,546	31,600	△ 3,946	89%
	水使用量(m ³)	13,433	12,954	△ 479	96%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	1,319	1,207	△ 112	92%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	0.53	0.72	0.19	135%
	廃棄物排出量(t)	80	88	8.8	111%
	廃棄物埋立比率(%)<処分残渣含む	4.2	1.5	△ 2.7	35%

④ 経済効果

2011年度:159 万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	老朽化ガス空調機(2台)更新による省エネ	21 万円
	サービスカーのハイブリッド車への変更による省エネ	43 万円
	その他、照明機器や自販機の省エネ	25 万円
ゼロ・エミッション化対策	有価物売却金額	70 万円
合計		159 万円

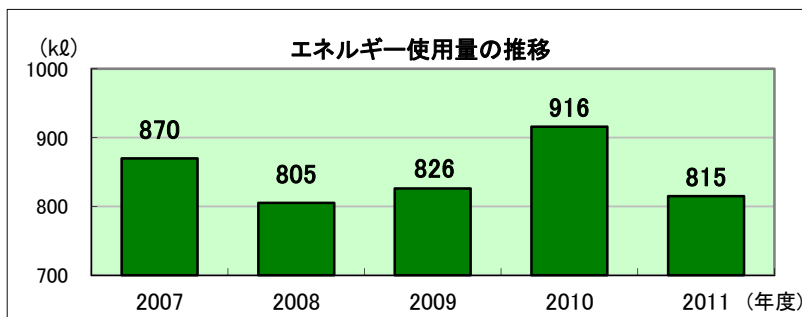
久宝寺事業センター

7 環境パフォーマンス

① 地球温暖化の防止

省エネルギー活動

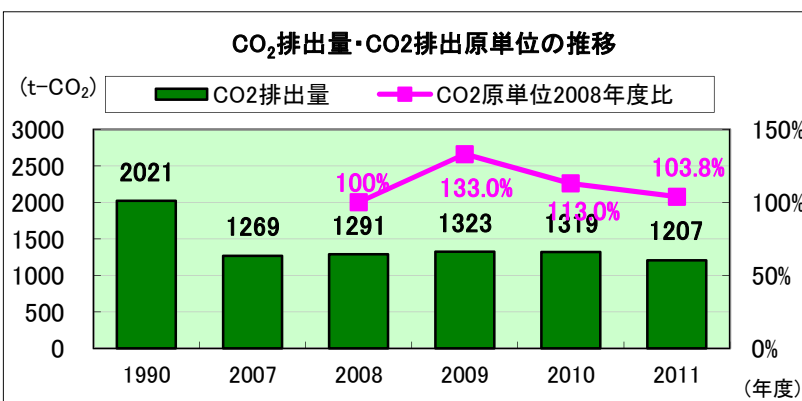
2011年度は節電の取り組みを強化して推進し、前年度比でエネルギー使用量を11%削減しました。



CO₂排出量の削減

2009年度よりグループ会社の車両燃料を集計対象に含めています。

※CO₂原単位2008年度比:
2008年度の生産金額ベースのCO₂原単位を100とした場合の割合



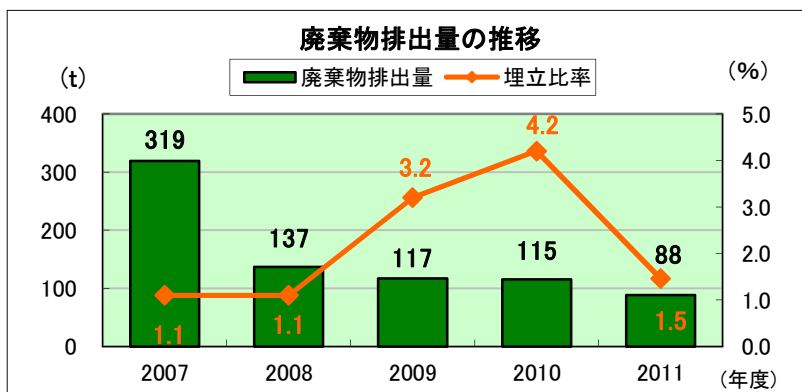
② 循環型社会の形成

廃棄物排出量の削減

ゼロ・エミッション化

埋立比率(処分残渣含む)の低減

最終目標:2012年度に0.5%以下としています。

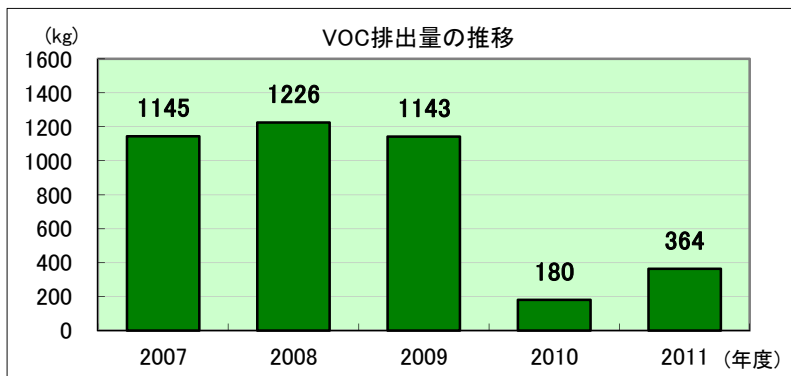


③ 有害化学物質の削減

VOC大気排出量の削減

塗装工程で使用するシンナーの使用量削減に取り組んでいます。

※取扱量が1トン未満のものも集計しています。



久宝寺事業センター

PRTR法対象物質の排出量・移動量(2011年度)

(単位:kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
63	キシレン	161	0.0	0.0	0.0	0.0	375
227	トルエン	156	0.0	0.0	0.0	0.0	27
40	エチルベンゼン	47	0.0	0.0	0.0	0.0	303

※取扱量が1トン未満のものを集計しています。

8 環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 事業所周辺地域清掃

	日 付	参加人数
1.	2011年4月13日	20名
2.	2011年5月11日	20名
3.	2011年6月8日	20名
4.	2011年7月13日	20名
5.	2011年8月10日	20名
6.	2011年9月14日	20名
7.	2011年10月12日	20名
8.	2011年11月9日	20名
9.	2011年12月14日	20名
10.	2012年1月11日	20名
11.	2012年2月8日	20名
12.	2012年3月14日	20名



② スポンサー花壇活動

名 称 久宝寺緑地入口花壇維持管理

	日 付	参加人数
1.	2011年6月12日	16名
2.	2011年10月19日	16名
3.	2011年12月1日	16名



久宝寺事業センター

9 サイトデータ

(2011年度実績)

▶ INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	815
水使用量	万m ³	1.3

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,207			
排水量	万m ³	下水道	1.17		
排水	放流先	項目	単位	No.1排水口	
				規制値	測定値
	公共用水域	pH	—	—	—
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		窒素	mg/l	—	—
		りん	mg/l	—	—
		六価クロム	mg/l	—	—
		鉛	mg/l	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
	下水道	pH	—	5.7~8.7	6.8, 7.6
		BOD	mg/l	300	11.0
		COD	mg/l	—	—
		SS	mg/l	300	10.0
		フェノール類含有量	mg/l	5	0.005
		沃素消費量	mg/l	220	7
		鉱物油	mg/l	5	0.1
廃棄物排出量		t	88		
埋立比率		%	1.46		